

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171300072		
法人名	メリーライフ株式会社		
事業所名	グループホーム里の家大曲(あかしあ)		
所在地	北海道北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2-2		
自己評価作成日	平成24年12月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0171300072-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25年 1月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じ合える希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるよう配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事、地域の交流などで生活のリズムを通して、忘れていた昔の自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、入居者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくと関わりをもち、落ち着いた環境でコミュニケーションを図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道36号線から程近い住宅街に建てられてた当ホームでは、管理者及び職員が利用者一人ひとりのニーズに対応したきめ細かいケアを展開し、利用者の心身機能の維持・向上に繋げています。介護計画や行事計画、日々の献立等に全ての職員が参画し、ホームの理念や各ユニットの介護目標に沿ったケア実践に努めています。運営者は職員それぞれの段階に応じた研修受講や資格取得をバックアップし、職員のスキル向上に取り組むとともに、それが日々の介護実践に活かされるよう指導しています。利用者は外出行事だけでなく、多彩なボランティアの訪問や保育園児を含む地域住民との交流を通して、変化や楽しみのある暮らしを送っています。運営法人系列4グループホームが意見や情報交換を行いつつ、北広島市と連携を図りながら認知症ケアの推進、質の向上に取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りにて唱和し、理解に努めている。ユニット内にも掲示し、実践に繋げていけるよう努めている。	運営法人理念の他にホーム独自のケア目標を掲げ、ユニット内に掲示しています。職員は毎朝の申し送り時に唱和する事で理念や目標に対する理解を深め、日々の介護実践に繋げています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し行事参加をしている。ホームで行われる行事への参加を働きかけている。	いちご狩りや花の町コンクール等の町内行事に利用者と共に参加しています。踊り、民謡、大道芸等のボランティアが年3回訪問する他、絵手紙サークルや保育園児と交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームで行われる行事に参加して頂き、理解や支援方法に結び付けている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度行われており、ホームの様子について報告し情報交換や意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催され、市や地域包括支援センター職員、町内会役員、家族代表の参加を得て、外部評価への取り組みや防災、行事等について意見交換しています。また、地域と防災協力関係の強化等に取り組むなどサービスの向上に繋がっています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者を中心に、市の高齢者支援課や福祉課と情報交換を行いながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市職員が運営推進会議に参加しており、良好な協力関係が築かれています。また、2ヵ月に1度市主催のグループホーム部会に参加して市との情報交換を行っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	電子錠にて施錠はされているが、勉強会を行いながら、身体拘束をしないケアについての理解はしており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全ての職員が身体拘束の弊害について正しい知識を持てるよう、内・外部の研修を受講する機会を設け、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。出入口は施錠されていますが、利用者に外出したいそぶりがある時はそれを妨げないようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する研修会に参加し、どのような事が虐待になるのかを理解し、職員同士で話し合いの機会を重ね、虐待防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人を立てている入居者の方も居り、どのような制度か理解できるよう勉強の機会を持ち、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者（計画作成担当者）がご家族様に重要事項に関する説明を行い、理解・納得を頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が設置されている。 日頃より面会時等に、意見や要望を伺うようにしている。入居者様からの苦情には、迅速な対応を心掛け改善に努めている。	家族の意見や要望を伺った時には、電話対応も含めて「家族対応記録簿」に記録し、職員間で共有しています。家族の要望は介護計画へ反映したり、日々の介護に活かしたりしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員と認知症ケアに関する協働者の認識を持ち、話し合いを重ねて、より良いケアの実践に努めている。	毎月1度のユニット会議で、個別のケア内容や食事・行事等について、職員と意見交換をしています。また、個別面談の機会を設けており、職員一人ひとりがホームでの自己の役割や目的意識を明確にしながら運営に関わっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、資格取得後は本人の意向を聞きながら、労働環境の改善に努めている。向上心を持って働ける環境作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修が定期的に行われている。職員は、外部研修に参加する機会も得て、学んだ事を日々のケアの中で実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北広島ネットワーク地域部会、地域ケア会議等に参加し、交流と研鑽の時を持っている。 職員は、他ホームの見学会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様よりお話を伺ったり、様子観察を行い安心して生活して頂けるような対応、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の際や入居時にお話を伺いながら、困っている事、不安な事や要望を伺いながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を伺いながら、必要な支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事の見極めをしながら、ご本人様の負担にならない出来る範囲のお手伝い等をお願いしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を呼び掛けたり、話しやすい雰囲気づくりをしている。 日々の様子を伝え、ご家族様の協力を得ながら、一緒にご本人様を支え合えるよう心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等により馴染みの方に会ったり、昔の話を伺ったりしながら、馴染みの場所の思い出を伺ったりしている。	友人の面会を快く迎えたり、希望に応じて遠方への墓参りに職員が同行するなど、これまでの習慣が継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルに発展しないよう見守りし、関わりを持って頂いたり、他ユニットとの交流を持てるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には、お見舞いに行ったりしている。退去されたご家族様が、来設される事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	都度、対応に努めている。 意思表示が難しい方には、ご家族様と相談したり、ご本人様の表情等から対応したり、本人本位について職員間で検討している。	日々利用者の意思を確認し、自己決定を尊重したケアに努めています。意思表示の難しい利用者は表情や仕種から思いを汲み取り、本人本意のケアとなるよう職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様より情報を頂いたり、日々の会話から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、様子観察を行いながら現状の把握に努め、一日を過ごして頂いている。 職員間での情報交換も、密に行い情報の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直しを行っている。また、現状によりプランの変更を行っている。 月に一度、ユニット会議にて話し合いを持ち、より良く、ご本人様らしく暮らして頂ける様、都度の対応に努めている。	介護計画は全職員が評価を行った上で、3ヶ月毎に見直しが行われています。状態に変化がある場合にはその都度ケアカンファレンスを行い、家族の意見を聞きながら現状に見合った介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りにて情報交換を行ったり、介護記録に記入し情報の共有に努め、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	3ヶ月に一度の見直しにて、必要な支援を取り組むようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問を楽しんでいる。美容室の訪問にて散髪を行い、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の病院への受診の支援を行っている。 協力病院では、2週に一度の往診にて体調管理を行い、必要に応じて受診の支援も行っている。	家族・本人の希望に応じて、これまでのかかりつけ医に受診できるよう支援しています。協力医療機関が2週に1度往診して利用者の体調管理を行っており、緊急時には24時間相談や往診、入院が可能な態勢を整えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職員はいないが、往診時や受診時には現状を伝え、相談している。必要に応じて、緊急受診も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向けた話し合いやご家族様の意向をお伝えし、情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の意向を伺う事は難しいが、面会時等にご家族様の意向を伺ったり、ホームでの取り組みや出来る事について都度、お話ししている。状況に応じ話し合いの場を設ける事もある。	重要事項説明書に「重度化に関する指針」を明示し、利用開始時に説明しています。利用者の状況に応じて、家族や医療機関と今後の方針を確認する機会を設け、方針を共有して支援にあたっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニット内にはマニュアルもあり、読み返しを行ったり対応についての話し合いを持ち、実践力を身に付けるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域の方々との協力を得て、昼間や夜間を想定した避難訓練を実施した。災害時に備えて、非常食やランタン等必要と考えられる備品を用意し、保管している。	消防署、地域住民の参加を得て、6月、11月、1月と昼夜を想定した避難訓練を実施しています。地域住民の役割は利用者の見守りや毛布等必要物品の提供です。非常食や水、ランタン等は備蓄されています。	地域の役割について、隣接する整骨院への誘導を加える等、協力体制の強化を期待します。居室の避難済みマークの導入、避難誘導に要した時間や職員の振り返りの記録等も期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような対応を心懸けている。配慮を忘れないよう、勉強の機会を持ち実践する体制を整えた。	利用者の尊厳を尊重した対応に努めるとともに、接遇研修の受講機会を設け職員の意識向上を図っています。個人記録の保管方法や情報提供に関する取り決めは適切になされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望を伺いながら、可能な限りの対応は行うようにしている。自己決定の難しい方には、分かりやすい様に選択して頂いたり、状況を見ながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、ご本人様の希望に沿った働きかけは可能な限り行っている。表情や体調を伺いながらの支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	ご自分で行えない方が多く、服の汚れ等を気に掛けながら支援している。起床時等の寝癖や服の乱れにも気を付け支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備する事は難しいが、見た目等でも楽しめるように盛り付けをしている。出来る範囲でのお手伝いの働きかけは行っている。	利用者の力量に応じて、買い物や片付けと一緒に 行っています。利用者の好みを反映した献立は毎食 写真に撮り、ホーム間のコンテストを行っていま す。漬け物作りや畑の収穫も共に楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考え提供している。水分量が少ない方には、多く摂って頂ける様、ゼリーや果物等で対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の洗面時に声掛けや見守り、必要に応じ介助を行っている。定期的に歯科往診を受け、口腔内ケアの実践をしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の様子や表情を伺いながら、トイレへの誘導を行ったり、排泄表を使用しながらトイレでの排泄支援を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、利用者の表情に注意しながら、声かけや時間誘導を行って トイレでの排泄を支援しています。夜間はオムツを使用している場合でも、日中はできるだけトイレでの排泄を支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の働きかけは難しいが、繊維の多い食材の使用や果物、ヨーグルト、水分を多く摂って頂けるような働きかけを行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否する方や体力のない方もいらっしゃる為、言葉掛けの工夫や様子を伺いながら、曜日は決めず にタイミングに合わせた支援を行っている。	週2回以上を基本とし、利用者の希望やタイミングに 合わせて入浴できるように支援しています。夕食後の入浴希望にできる限り応じたり、入浴を拒む利用者には不安感をなくす方法を職員間で検討・工夫し、実践しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や体力により静養の促しを行っている。過ごしやすいう、温度や湿度には気を付けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量についての理解に努め、不明な点があれば医師より説明を受けるようにしている。日々、症状の変化の確認に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、楽しみとなる事の把握に努め、提供している。日々の生活の中で、楽しめる時間を持つよう心掛け、気分転換に繋げている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間の外出機会は少ないが、他の季節には積極的に外出の機会を持てるような外出行事を行っている。天気の良い日には、日光浴を行ったり散歩の機会を持てるよう支援している。	畑やスーパー、散歩、釣りに出かける他、行事外出ではバスを使って遠出しています。気候の良い時期にはホーム前のウッドデッキで外気浴をするなど、できるだけ戸外に出かけられるように支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様やご家族様の希望によりお金を所持されている方はいらっしゃる。管理が難しい方については、ホームでの管理となっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望により電話をしたり、ご家族様からの電話を取り継いだりと支援を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごして頂ける様、季節ごとにホールの壁を飾ったりしている。	共用空間は明るく、廊下には2段階の高さで手摺りが設置されています。壁面には利用者の写真や季節感のある手作り装飾、絵手紙サークルや布おもちゃサークルの展示物等が飾られており、和やかな雰囲気を出しています。通路には鉢植えや利用者の活けた花が飾られています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じ場所で過ごされる方が多いが、ホール内にソファを配置したりし気の合った方同士で過ごす事が出来るようになっている。また、それぞれが思い思いに過ごせるよう、パズルや雑誌を提供したりしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限りご自宅で使用されていた物を持ってきて頂いている。危険回避の為、物を置く事が難しい場合もある。	居室はテレビやタンス、鏡台、肘掛け椅子などそれぞれが馴染みの生活用品を自由に持ち込み、落ち着いて過ごせるよう配置してあります。広い押し入れをクローゼット代わりにして、すっきり整理された居室となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙をし分かりやすいよう工夫している。自立に向け、掃除道具を使用しやすい場所に用意したりしている。			